

## (11) 沖 縄



沖縄地域では、景気は緩やかな改善が続いている。

- ・ 観光は引き続き増加している。
- ・ 個人消費は緩やかな持ち直しの動きが続いている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、緩やかな改善が続いている。

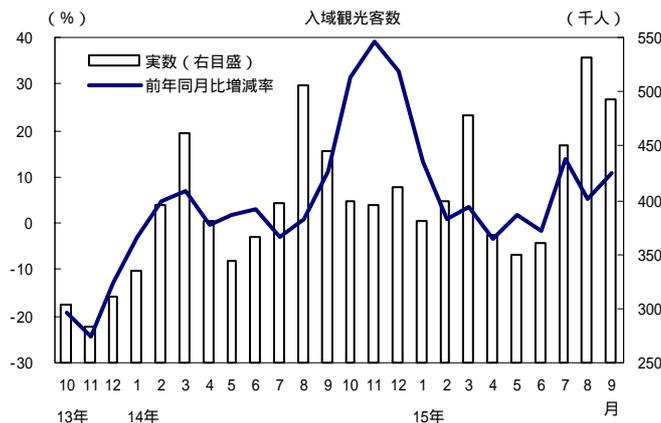
### 前回調査からの主要変更点

	前回（平成 15 年 8 月）	今回（平成 15 年 11 月）	
観光	増加	引き続き増加	
住宅建設	増加	減少	

### 1. 観光及び企業動向

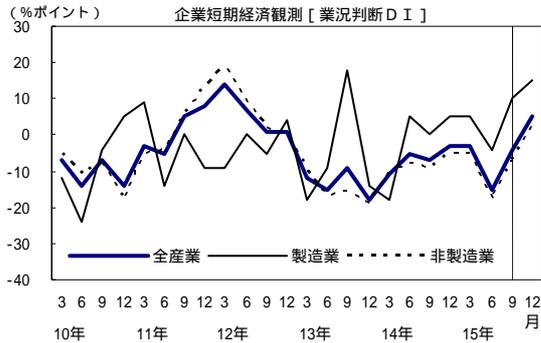
#### (1) 観光は引き続き増加している。

7月から9月の入域観光客数は、SARSの影響が薄れ、海外路線の通常運行再開により外国人客の減少幅が縮小するという状況のなかで、誘客キャンペーンの効果、航空路線の拡充、石垣島や久米島といった離島志向の旅行需要の高まりにより各月とも前年を上回り、月ごとの過去最高を記録した。また、7 - 9月期における主要ホテルの客室稼働率についても、那覇市内のホテル、リゾートホテルとも前年を上回り、高水準で推移している。

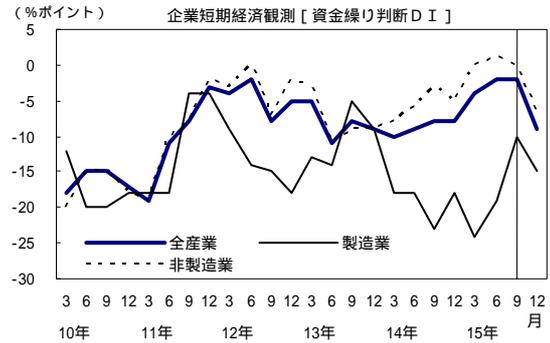


(備考) 入域観光客数は沖縄県観光リゾート局調べ。

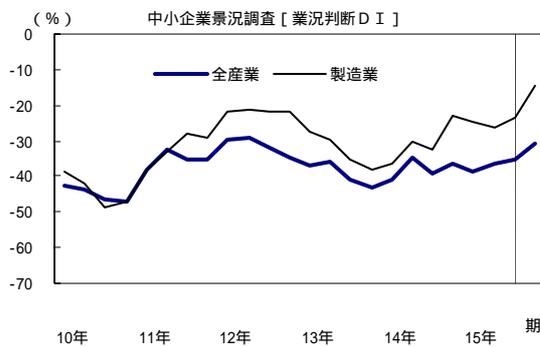
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。  
企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。15年12月は予測。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年12月は予測。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。15年 期は見通し。  
九州地区のD I。

景気ウォッチャー調査 (10月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「ある程度の技能を有する顧客には、サービスを低減し価格を抑えた商品は魅力的のようで、そのような顧客が安価なサービスを提供する会社には流れている (通信業)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

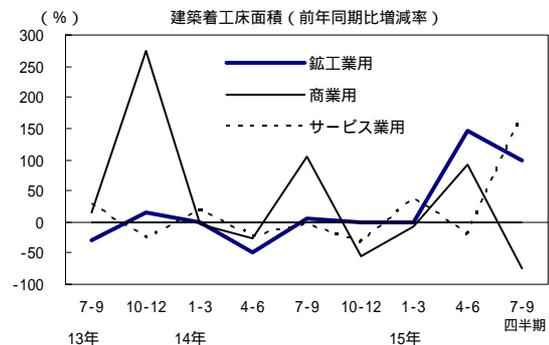
(3) 設備投資の15年度計画は前年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (9月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	14年度実績	15年度計画
全産業	12.8	2.3 ( 1.4 )
製造業	36.0	51.7 ( 4.6 )
非製造業	19.1	6.1 ( 2.1 )

(備考) ( ) は前回 (6月) 調査比修正率。



## 2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかな持ち直しの動きが続いている。

百貨店販売額、スーパー売上高、家電卸出荷額

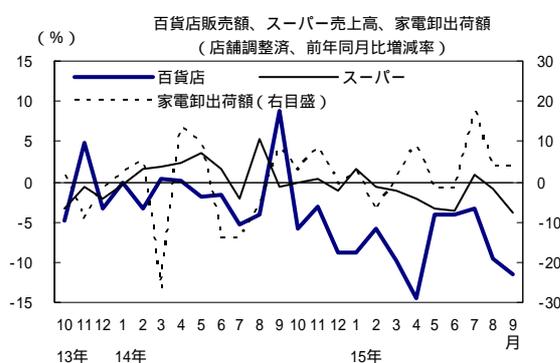
百貨店は、7月は旧盆の時期が前年よりも早かったため、中元商戦が早まり食料品が伸びたが、身の回り品等が振るわず前年を下回った。8月は旧盆に伴う中元商戦前倒しの反動に加え、台風の影響により前年を下回った。9月は前年のプロ野球セールスの反動から前年を下回った。

スーパーは、猛暑の影響により、水着や浴衣等の夏物衣料や飲料の売上が好調であったものの、大型店の新規出店の影響が続いていることから、前年を下回った。なお、全店ベースでは前年を上回っている。

家電は、パソコンやDVDが好調であったことに加え、猛暑によりエアコンが大幅に増加したことから前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(10月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

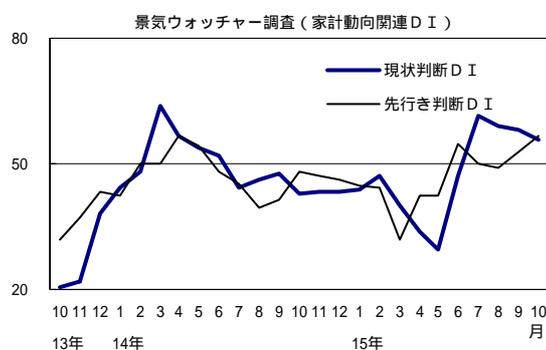
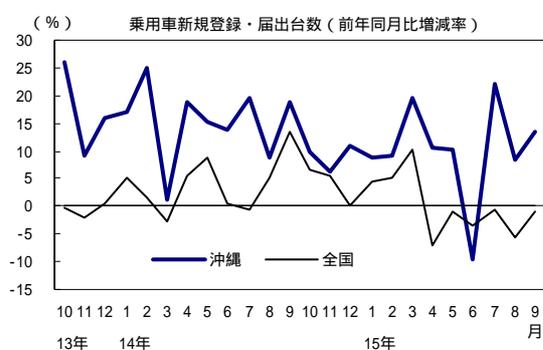
「雑誌や週刊誌、月刊誌などの衝動買いが、ほとんどない傾向が続いている。自分の欲しい物や目的以外の商品は、ほとんど買わずに、店頭にて立ち読みして帰っていく客が増えている(その他専門店[書籍])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



(前年同期比増減率、単位：%)

	14年10-12月	15年1-3月	4-6月	7-9月
百貨店	6.3	8.3	7.7	8.0
スーパー	0.4	0.0	3.1	1.2
家電卸出荷額	3.1	1.2	1.8	8.9
乗用車	9.2	14.4	2.0	15.7
景気ウォッチャー	43.2	43.8	36.8	59.5

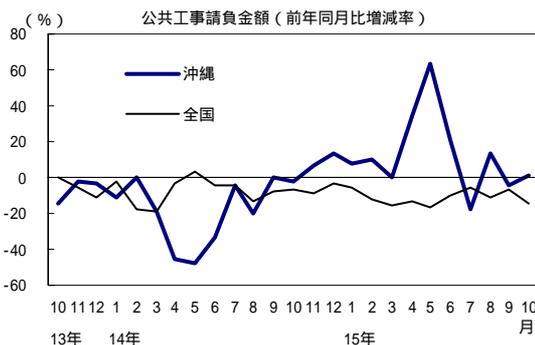
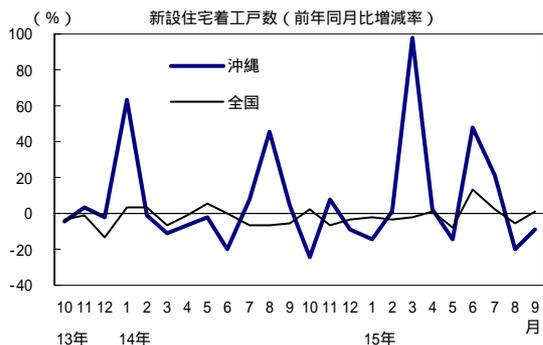
- (備考) 1. 百貨店販売額、家電卸出荷額は沖縄銀行調べ。  
2. スーパー売上高は日本銀行那覇支店調べ。店舗調整済。  
3. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は減少している。

分譲が前年を上回ったものの、貸家が下回ったことから、全体でも減少している。

(3) 公共投資は年度累計で見ると前年を上回っている。

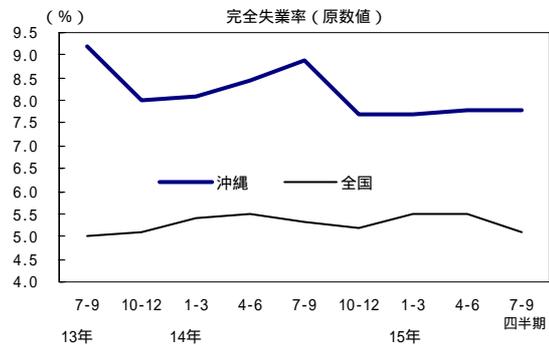
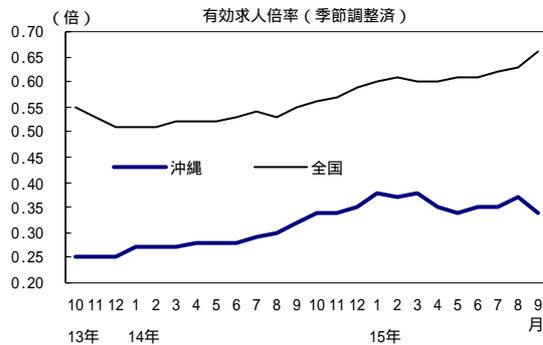


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、緩やかな改善が続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



(備考) 沖縄県企画開発部統計課「労働力調査」により作成。

景気ウォッチャー調査(10月調査)[雇用関連(現状判断)]

「観光の現場や公的機関からまとまった派遣要請があり、以前よりやや持ち直している(人材派遣会社)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は下落幅が横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	14年10-12月	15年1-3月	4-6月	7-9月	15年10月
倒産件数	26	26	34	35	10
(前年比)	13.3	7.1	30.8	6.1	25.0
負債総額	85	207	121	173	19
(前年比)	16.2	191.6	117.9	138.2	9.4



景気ウォッチャー調査(10月調査)[合計D I (特徴的な判断理由)]

<現状>

・来客数は県外からの入域観光客数の増加及びモノレールの運行により、前年同月比で大幅に増加している(観光名所)

<先行き>

・例年ならば忘年会の予約受注がある時期なのだが、今年は例年よりかなり少なく、このままでは前年度を下回る可能性がある(都市型ホテル)

